

# 平成 29 年度 文京区議会厚生委員会 視察報告書

## 1 視察日程

平成 29 年 11 月 6 日 (月)

## 2 視察先及び目的

鳥取県米子市

特別養護老人ホームを中心とした地域包括ケア体制づくりに関する  
調査・研究

## 3 視察参加者

委員長 田 中 香 澄

委員 渡 辺 智 子

委員 関 川 けさ子

委員 白 石 英 行

委員 渡 辺 雅 史

委員 松 下 純 子

同行 真 下 聡 (認知症・地域包括ケア担当課長)

随行 吉 野 隆 久 (区議会事務局議会主査)

11月6日（月）

# 鳥取県 米子市

## ■米子市の概要

人 口 148,953 人 （平成 29 年 10 月末日現在）

世帯数 66,290 世帯 （平成 29 年 10 月末日現在）

面 積 132.42 k m<sup>2</sup>

概 要 鳥取県の最西端に位置し、島根県に隣接する県西部地域の中心都市である。「山陰の商都」と呼ばれるなど、古くから商業活動が盛んで、JR 3 線や中国横断道が通り、米子鬼太郎空港が置かれるなど、山陰の交通の要衝となっている。自然と都市機能が調和し、特に医療機関が充実している。平成 27 年に経済産業省が作成する『生活コストの「見える化」システム』において、暮らしやすさ日本一と評価され、同年の国勢調査では、平成 22 年の前回調査より人口が約 1,000 人増加した。



社会福祉法人こうほうえん（アザレアコート）にて

# 「特別養護老人ホームを中心とした 地域包括ケア体制づくり」

- 1 視察先名称  
社会福祉法人こうほうえん（アザレアコート）  
特別養護老人ホーム よなご幸朋苑
- 2 視察日時  
平成 29 年 11 月 6 日（月） 11：30～16：00
- 3 視察目的  
「特別養護老人ホームを中心とした地域包括ケア体制づくり」に関する調査・研究



廣江 研 理事長

- 4 視察先対応者  
社会福祉法人こうほうえん  
理事長 廣江 研 氏  
理事・教育研修人財部長 永田 壽子 氏  
よなごエリア総合施設長・介護老人福祉施設よなご幸朋苑 施設長 高岡 久雄 氏  
介護老人福祉施設よなご幸朋苑 介護課長 戸田 悦子 氏

## 5 事業内容

「社会福祉法人こうほうえんが取り組む地域共生社会の実現」

### (1) 設立

昭和 62 年、鳥取県に本部をおいて事業を開始した。

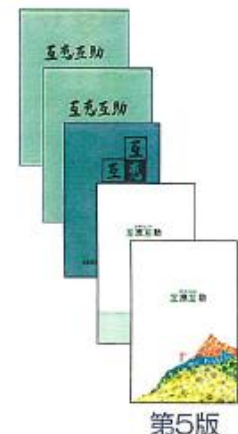
法人設立の地の隣地が小学校だったことから、高齢者と子ども、地域がつながるよう、理念として「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される」こうほうえんを目指すことを、基本方針として「サービス業のプロとして、正しい情報伝達し、自分の受けたい保健・医療・福祉サービスの提供・改善に努める」ことを掲げた。

### (2) 運営

介護、障害、医療、保育を結ぶ施設形態及び複合施設をつくり、地域の課題を包括できる体制を構築している。

人財育成とサービスの質については、中期視点で「互恵互助」を目指し、法人が大切にしたい価値観を記した「互恵互助」の冊子は、職員参加のもとに改定を重ねて、第 5 版となった。

エリア制度・チーム制度などの改革への転換に、地域公益活動の経験を生かし、地域包括ケアシステムに向けた事業再編を行っている。



### (3) サービスの特徴

- ・身体拘束廃止宣言を行い、超音波膀胱内尿量測定器によりおむつが外れることを最重要視し、QOLの高い介護を提供している。
- ・気づきシステムを構築し、誰もが根拠に基づいた介護の提供と気づき（経験）の可視化に取り組んでいる。
- ・外部の視点を導入し、第三者評価の受審と公表を実施し、改善につなげている。



永田壽子 教育研修人財部長

### (4) 今後の取組

- ・ケアプランを、サービス種別を一気通貫したアセスメント方式を導入し、ビッグデータを用いて最適なケアプランを策定する。
- ・職員の身体的負担軽減、配置人員の最適化を目指し、平成28年のノーリフティング宣言を確立する。
- ・ユニットケアの生産性と質の両立を図る。
- ・看取りまで安心できる在宅ケアを実現する。
- ・社会福祉法人の現場からICT、AI、ロボット開発を行う。
- ・新たな地域公益活動を展開し、新たな課題＝ニーズに対応する。
- ・新たな人財を発掘し、介護の支え手を育成する。
- ・業界の経営品質の向上と新たな社会的課題に対応するため、他業界との情報交換を行う。

## 6 主な質疑応答

### 【講義における質疑応答】

Q 35人の職員から事業が始まって、法人をよくここまで大きくしたと、とても感心した。大きくなった要因は何か。

A 理事長の父が医院を開業しており、貧しい人たちのために尽力していた。理事長が大学2年の時に、その医院を閉めて何もなくなったが、地域の方々が助けてくださり、銀行が融資をしてくれて、こうほうえんの母体である医療法人養和会ができた。その後、昭和61年に社会福祉法人こうほうえんを設立した。

地域住民が必要とするサービスを介護、保育、医療、障害といった制度の枠にとらわれず、地域ニーズを先取りした総合的な福祉サービスとして提供してきたことが、今日の到達点を作ったと思っている。あわせて、職員の研修に力と資金を注ぎ、研修制度も充実させてきた。



質疑の様子

Q 厚生労働省の規制など、これまで様々あった規制をどのように超えてきたか。

A 誰のための制度かということを中心に考えながら対応してきた。

低所得者に対するセフティーネットも社会福祉法人の重要な役割であると考え、「社会福祉法人等による生計困難者等に対する介護保険サービスに係る利用者負担額軽減制度事業」や「無料低額診療事業」だけでなく、法人独自の減免制度を設けるなど、積極的な減免制度を行っている。

また、特別養護老人ホームのユニット型個室やグループホームにおける生活保護費受給者の受入れ、生活保護費受給者のトライアル雇用も行ってきた。

Q おむつを外すことに職員からの抵抗はなかったか。

A 最初は色々と意見があったが、議論をし、研修も行いながら実践してきた。高齢者の尊厳を守るということで実行して良かった。特別養護老人ホーム・よなご幸朋苑では、おむつをつけているのは一人のみとなった。

おむつを外すことは、身体拘束廃止につながることであり、研修事業に参加してアンケートを取った。そこで職員の考え方として、自立している人、意思疎通ができる人は、おむつ外しができると考えた。誰もがおむつのない生活を望んでいるので見直しをしていった。おむつは当たり前という中で、どうしたらおむつを外せるかに取り組み、その結果、ほとんどがおむつのない人になった。

研修を受けて外に出ていった人たちや、他に就職した人たちが、そこでの排泄ケアの違いが分かり、こうほうえんで働くことを希望している。

尊厳を支える中でも、基本的なもので、それができると一人ずつできるのではないかと考えると、職員のモチベーションが上がる。毎月データを取り、おむつの利用状況を調べて検証している。

大事にしていることの価値をしっかりとと言えることで、こうほうえんで働けるのだと思う。個人目標をしっかりと応援している。



よなご幸朋苑・外観 と 戸田悦子介護課長から説明を受ける様子

Q 個人個人の尿意が分かるのか。

A アセスメントする上で、70日間の記録をとっており、食べる量、排泄の量などから調べている。

Q 在宅介護が増えない理由は、家族であっても排泄ケアが大変であるからであり、どうしても施設に預けてしまっている。施設では排泄ケアを家族の方にもさせないので、在宅介護になったときには、誰がどう説明し、この良い方法を生かしていくのか。

A それを今、正にやろうとしている、鳥取の地域の中での取組としては、それが地域包括ケアであると思う。

Q 人財育成に1億円を活用しているところは他にないのではないか。

A こうほうえんの中にいると分からないが、外に出てみると、他の人が研修などに自分のお金で来ていることに気付いた。その分、いろいろな所で研究発表をさせてもらっている。

Q 東京などに進出し、鳥取を離れていくことでミスマッチは起きていないのか。

A 東京は、自意識が高いし、鳥取の田舎の発想だからと思われていたが、最近では理解し始めていると思う。

#### 【よなご幸朋苑 見学中の質疑】

Q 入所時の条件で、胃ろうやバルーンを挿入している方は受け入れてもらえるのか。

A 受け入れている。  
おしっこの管はなるべく外すように努力している。胃ろうの方も口腔から少しでも摂取できるように努力してきた。

Q 具合が悪くなり入院した場合、ベッドは何か月まで空けておけるのか。

A 3か月までは可能である。



# 視察を終えて

## 田中 香澄 委員長



地域包括ケアシステムとは、高齢者自身はもちろんのこと、同時に、家族にとっても地域にとっても幸せな制度になっていかなければならない。しかしながら、優先される課題は、当事者のQOLであり、その維持が大いなるテーマであろう。そして、維持のみならず、QOLの向上に果敢に挑戦している法人が、この度、視察させていただいた社会福祉法人こうほうえんである。法人の理念や介護、医療、障害、保育のサービスの質、地域連携の実績を伺い、まさに「自分が受けたい！」と率直に思ったのは私一人ではなかったと断言したい。

今後、本区においても、特別養護老人ホームを始めとする高齢者施設の設置や在宅介護を支える体制の構築には、同法人の取組に学ぶ点が多い。一つ取り上げるとすれば、法人が展開する事業の根底にある価値観、利用者本意、互惠互助などの上に築かれたエビデンスは貴重な資料であり、ノウハウは手本となろう。さらに、これらのノウハウを在宅ケアや家族ケアに活かし、地域連携へ発展させることが望まれると思う。早急に取り組むべき課題が見え、大変有意義な視察となった。受け入れてくださった法人に感謝申し上げたい。

## 渡辺 智子 委員



誰もが住み慣れた地域で安心して、自分らしい暮らしを続けていくことは、多くの人々の願いであると思います。

地域包括ケアシステムの構築に向けて取り組み、ハイサービス日本 300 選にも選ばれている、こうほうえんを視察してまいりました。こうほうえんは、鳥取県米子市に本部を置き、介護、保育、医療、障害といった総合福祉サービスを提供している法人です。ここでは「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される組織」を目指しており、素晴らしい事業を展開しておりました。「人財と苦情が2大財産」と掲げ、苦情を積極的に組織に取り入れる活動を行うとともに、「人材」

を「人財」と読み替え、積極的な人財への投資やエルダー制度を用いた育成と人事管理を行っており、大変参考になる運営をされていました。そして様々な福祉サービスを地域に提供し、日々の生活支援を充実させています。自分が受けたい保険・医療・福祉サービスの提供・改善に努めるとした基本方針に基づき、平成15年から取り組んできた「おむつゼロ作戦」の排泄ケアは、これからの在宅介護への取組方の大変大事なところであると思います。この事例からも、施設に入所することにより自立の妨げとならないように見直しをすることは必要と考えます。そのためには、介護者の人員の確保、そして質の向上も大切ですが、本区としてより良いサービスの改善を期待いたします。

## 関川 けさ子 委員



35人の職員から出発して、今では2,000人もの職員を配し、特別養護老人ホームを始め、サービス付き高齢者向け住宅や保育園等、地元の米子市だけでなく東京にも進出し123か所もの事業所を持つまでに成長した社会福祉法人こうほうえんの理事長さんや、職員の方の試行錯誤しながら介護に取り組んできたお話を聞くことができ、とても勉強になりました。地方都市にありながら、新たな試みにも果敢に挑戦し、全国初となる在宅介護支援センターの設置、老人保健施設とケアハウスの合築、都内初となる一般保育園と夜間保育園の合築を行うなど、地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼されるを基本に、い

つも介護を受ける方の立場に立って実践されてきたこうほうえんだからこそ、様々なことに挑戦できたのだと思いました。また、苦情と人財は2大財産として、苦情解決委員会やオンブズマン制度を設置していることにも驚きました。

さらに、海外研修も取り入れた教育研修など人財投資にも力を入れ、職員の働きやすい環境整備を整え、仕事として介護に携われる喜びを持てる職員の育成に力を注いできたことが、高齢者の尊厳を守り、おむつを外すという挑戦へとつながったのだと思い、感動しました。

## 白石 英行 委員



文京区版地域包括ケアシステムを現在策定中であり、文京区の環境を最大限に生かしたサービスを提供するため、先進的に評価を受けている、こうほうえん 廣江理事長から話を聞くことができ、大きな期待とその運営に感心した。

社会資源と連携した地域福祉ネットワーク拠点としての責務から、次世代も視野に入れ、継続性のある地域包括ケアを推進し、利用者に高いQOLを提供するための努力を惜しまず、それらを確立するために取り組む社会福祉法人の姿を見た。

また、アザレアコートこうほうえん及びよなご幸朋苑の施設では、施設の運営が充実し、職員が役務をそれぞれの確に実施していることや地域連携の一部が見え、利用者にとって良好な環境であることが確認できた。

本区においては、QOLの高いサービスを持続して提供していくために、人口動態予測に基づいて特別養護老人ホームを整備していく一方で、看取りまで安心できる在宅ケアの実現が求められていく。社会福祉協議会と密接に連携しつつ、高齢者あんしん相談センターの充実と業務の拡大を図りながら、子どもの支援、障害者支援に結び付けるために、地域力の必要性が求められる。文京区版地域包括ケアシステムの確立に向け、文京区が主体となって地域社会福祉事業を支援できる体制づくりに期待する。



## 渡辺 雅史 委員



鳥取県米子市にある特別養護老人ホームよなご幸朋苑を視察しました。米子市や境港市を拠点に「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される施設」を目指し、その歴史を刻んできたとのこと。理事長自ら法人の歴史や施設の運営状況をお話しいただき、その熱意やリーダーシップに感服しました。法人の基本精神を示す言葉は「互惠互助（ごけいごじょ）」。お互いが助け合い、お互いが幸せを分かち合う精神で、地域と互惠互助の関係なくして真の利用者本位は実現できない。また、職員の和も重視し、「こうほうえん」という絆で結ばれた家族であり、事業を超えてつながり、お互いを高め合

う組織を目指すとの姿勢はとても重要だと感じました。具体的な取組として感心させられたのが、「おむつゼロ」実現やICTを活用した利用者の状況の把握など、これは利用者本位に立つという視点のみならず、職員の負担軽減にもつながるという発想には目から鱗でした。あわせて、収益の1割を職員の研修費に充当し、様々な体験・研修を行うことで職員のモチベーションを維持・向上につなげていこうという取組も大いに評価できるものでした。お聞きするところによれば、23区の中でもすでに事業を展開されている実績があるとのこと、今後、文京区ともご縁ができることに期待しているところです。

## 松下 純子 委員



今回の視察先である、こうほうえんは驚きと感動の施設でした。「おむつゼロ」を目指し、入居者約70人中おむつの方は、たった1人という数字に驚愕しました。介護施設でおむつゼロを目指すということは、通常では考えにくいものですが、組織・職員が一丸となって利用者の方々と向き合い、時間を掛けて取り組んだ結果とのこと。文京区でも是非目指していけたらと思います。理事長の強いリーダーシップとあふれる発想が、様々なことを成し遂げて来られたのだと感じました。できない理由ではなく、できる理由を常に意識されていること、入所者だけでなく職員の働く意欲が高まるような工夫や方向性が多く見ら

れました。利益の1割を職員の方の研修費に充て、様々な経験が出来るシステムづくりもその一つだと思います。

議会の視察は、基本的に東京から離れた場所に行っていますが、文京区から遠く離れると環境や歴史の違いがあり、素晴らしい政策でも文京区では実現に結び付かないことが多いです。しかし、今回のこうほうえんの視察は、文京区の政策につながる希望が見えました。視察だけで終わらないよう、文京区でも「おむつゼロ」を目指す方法を模索していきたいです。